

シンポジウム

近代遺産の 保存と活用

郭家住宅を事例として

11/11(sat) 13:30-16:00

和歌山県立近代美術館 2階ホール

第1部 13:30-14:45 基調講演

「明治初期洋風建築について」

講師

東京大学名誉教授
東京都江戸東京博物館館長

藤森 照信氏

第2部 15:00-16:00 シンポジウム

「近代遺産の保存と活用—郭家住宅を事例として—」

パネリスト

藤森照信氏 (東京大学名誉教授、東京都江戸東京博物館館長)

明石和也氏 (和歌山県建築士会 まちづくり・委託事業委員会委員長)

中西俊五氏 (和歌山市 今福連合自治会会長)

コーディネーター

西山修司氏 (郭家住宅の会 世話人代表、近代建築史家)

主催：郭家住宅の会 / 協力：和歌山県立近代美術館 / 協賛：今福連合自治会

建築遺産を活かした 魅力あるまちづくりへ

まちの建築遺産は、その地域の歴史や文化を今に伝えるとともに、まちに風格や魅力を与え、市民にとってはそこで暮らすことに誇りを感じさせる大切なものです。今日、建築遺産を適切に保存し活用する「歴史を活かしたまちづくり」が求められています。

和歌山市は、紀州徳川家の城下町として、その後は産業都市として発展し、昭和戦前期までは数多くの建築遺産を擁していましたが、今日これらの多くが失われています。

いま残存している近代の建築遺産のなかで、最も重要なもののひとつが「郭家住宅(旧郭医院)」です。この遺産には、明治維新から間もない神戸や横浜の開港地に多く建てられたことで知られるベランダコロニアル様式の洋館や、江戸後期につくられた質の高い数寄屋などが含まれます。

この洋館を建てた郭百輔^{かくひやくすけ}は紀州藩の御殿医でしたが、明治維新後は近代西洋医学の普及を目指して和歌山医学校兼小病院(現在の日本赤十字社和歌山医療センターの前身)を設立するため奔走するとともに、自らもこの地で西洋医学による治療を行いました。また診察室から続く数寄屋は最初に紀州藩士伊達家^{だて}に建てられ、その後郭家に移築されたと伝わり、そのことから陸奥宗光^{むつ むねみつ}の生家の一部である可能性があります。

このたびのシンポジウムは、この郭家住宅を例に、建築史家、まちづくりの専門家、地域の方々と共に、建築遺産の保存と活用、そして歴史を活かしたまちづくりについて考えようとするものです。ぜひご参加ください。



郭家住宅正面 (明治10年築)



郭家住宅数寄屋内の煎茶席 (幕末期築)

講師紹介



東京大学名誉教授
東京都江戸東京博物館館長

藤森 照信氏

1946(昭和21)年生まれ。高校卒業まで長野県茅野市で過ごす。東北大学、東京大学大学院卒業。近代建築史、都市史研究の我が国における第一人者として多くの業績を残す。「建築探偵団」「路上観察学会」の活動を通じ、街に出て歴史ある建築等を発掘したことで知られる。

また建築史研究の成果を基に建築設計にも注力し、その結果生まれた自然や歴史文化を生かした、手作り感あふれる建築は独創的で日本建築学会賞など数々の賞を受賞している。これらの作品には茶室が多く含まれ、氏が郭家の煎茶席をどのように評価するか興味は尽きない。

ご参加方法について

参加料:500円 定員:先着100名
事前申し込みは不要です。当日10:00より、会場となる近代美術館1F受付にて整理券を配布します。

和歌山県立近代美術館
THE MUSEUM OF MODERN ART, WAKAYAMA

〒640-8137 和歌山市吹上 1-4-14
tel.073-436-8690 fax.073-436-1337 <http://www.momaw.jp>

お問い合わせ先: 郭家住宅の会 (西山) tel.090-1983-1366

